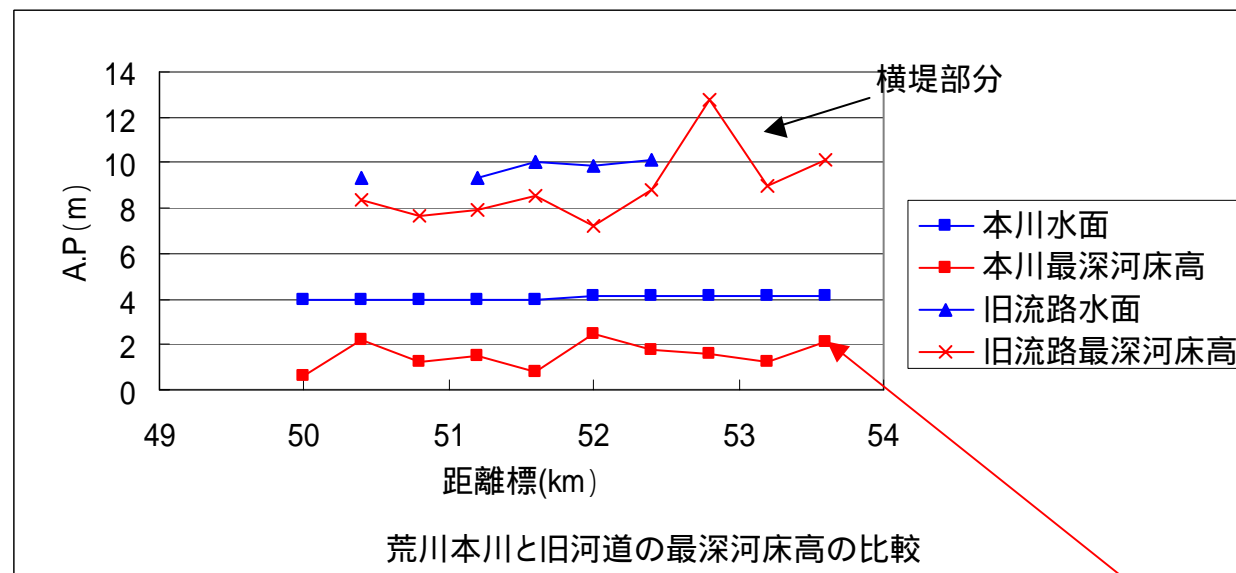
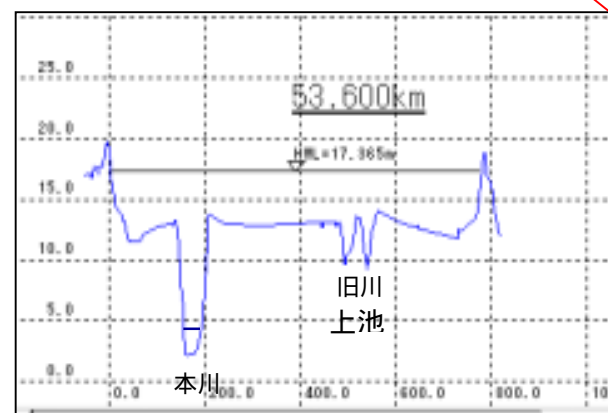


本川河床高との落差



本川の河床の低下により旧河道の河床高との差は現在 5~9m になっている。



平成 14 年横断面

図-7.7 現状の太郎右衛門再生地の池底(旧川)と本川の河床高

地下水位の低下



図-7.8 河床の低下と地下水位の低下(模式図)

本川の河床の低下に伴い地下水位も低下していると推測できる。その結果旧流路を含む高水敷が乾燥化しているものと考えられる。

本川水の冠水頻度の低下

本川からの水の供給は出水時の冠水によってもたらされると考えられるが、上流ダム群などの治水整備により洪水が少なくなったことはもちろんであるが、本川の河床の低下によって高水敷の冠水頻度も低下したと推測される。

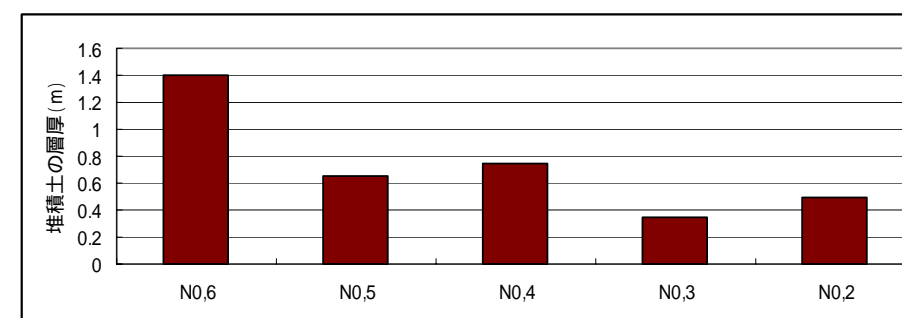
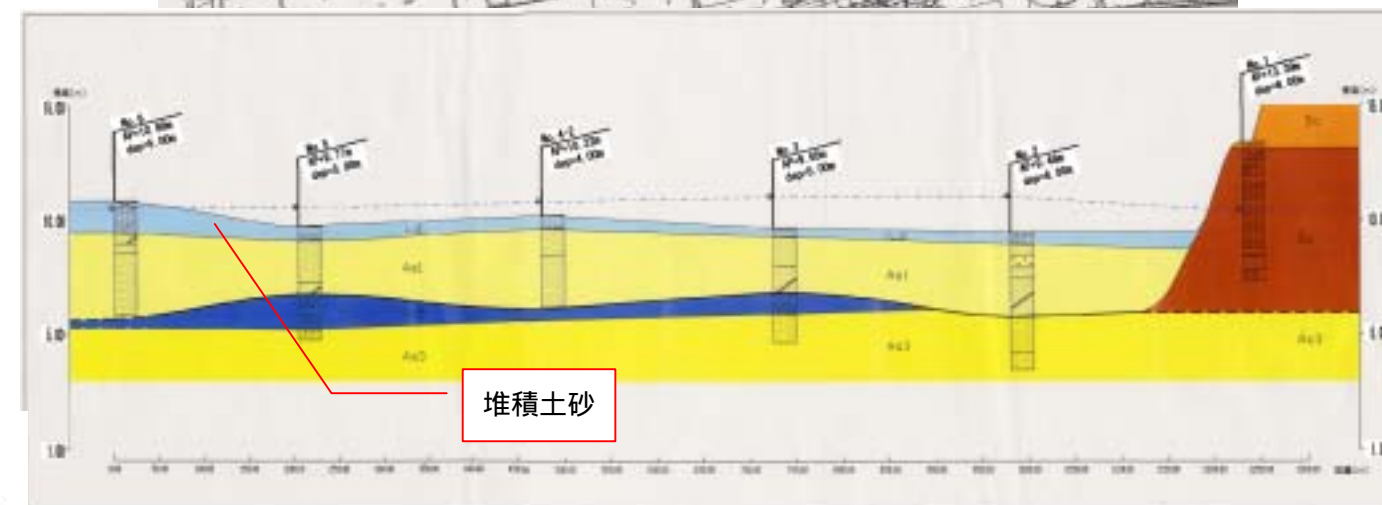
表-7.2 冠水頻度の推定

	冠水頻度	
	日/10年	日/1年
昭和29年	106	10.6
昭和39年	44	4.4
昭和49年	32	3.2
平成14年	22	2.2

各年における河床高から高水敷が冠水する流量をもとめた。各条件は下記の通り。
 ・等流水路(台形)とし、マンニングの公式によって流速及び流量を算定した。
 ・粗度係数、河川勾配は昭和49年~平成5年(河道計画報告書)を用いた
 ・河道の形状は平成14年横断面を基に河床高のみ当てはめている。

池への土砂の流入

平成 14 年度の調査によると、上池では、本川と分離後約 70 年間に堆積した土砂の層厚は平均 0.7m (0.35m~1.4m) であると考えられる。



凡例	記号	性状	配色
	Ac1	シルト礫(堆積土砂)	青
	Ac2	シルト・細砂	黄
	Ac3	シルト	紫
	As1	微細細砂	黄
	As3	細砂	黄
	Bc	粘土	赤
	Be	シルト表層	赤
	Ld	シルト	青

図-7.9 上池縦断ボーリング結果(平成 14 年 12 月)